

TOUCH 通信

第11号

特定非営利活動法人自閉症くらし応援舎 TOUCH

TOUCHは、自閉症や発達に障がいのある方やその家族の方が地域で幸せに暮らせるお手伝いをしたいと、福岡市東区箱崎で、以下のような活動しています。

どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。学生さんやボランティアさんも大歓迎です。

2010年 春号

2010年 2月 22日発行

TOUCHとは・・・タッチの活動をご紹介します

目次	
TOUCHとは・・・	P1
PLTだより	P2
スマイルポッケの毎日	P3
「きょうだい児」サークル すてっぷ	P4
井上教授の徒然	P5
箱崎散策	P6
書籍紹介	P7
ご存知ですか	P8

- 本人支援・・・PLT【発達検査と評価・個別療育指導教室・個別相談】
スマイルポッケ【卒業後の日中の活動の場】
- 家族支援・・・各種相談
学習会・懇談会・相談会
きょうだい児サークルとの連携【すてっぷ】
- 人材育成・・・実習及び研修生の受け入れ、研修会等への講師派遣
- その他・・・啓発活動
- 正会員・・・年会費4,000円【情報交換・ピアカウンセリングが目的のMLがございます】
- 賛助会員・・・年会費：個人2,000円【何口でも可】、団体10,000円【何口でも可】
【ご希望の方にはメールにて情報配信サービスがございます】

相談(初回相談は無料)・検査・療育の利用料はホームページに掲載中です。
詳細・ご予約は、お電話にてお問い合わせください。

平成22年4月、「スマイルポッケ」が変わります！

「スマイルポッケ」は、TOUCHの活動の1つです。平成19年4月に、自閉症や発達に障がいのある方の学校卒業後の活動の場としてとして開設いたしました。
きめ細かい支援により、利用者は楽しく自立した活動を通して自信を獲得し、充実した日中活動をおくっています。

スマイルポッケで作った製品を販売する場所も増えています。社会から認められ、お店に自分が作った物が並べられている様子を見ることが、利用者にとって次の仕事の意欲につながっています。

さて、開設以来3年間、スマイルポッケは行政の支援を受けることなく活動してまいりましたが、この度、福岡市の助成による地域活動支援センターとして運営してまいります。
この助成に伴い、平成22年4月より、これまでより間口を広げ、さらに利用しやすい、新しいスマイルポッケとして生まれ変わることになりました。詳細は、下記のとおりです。

今までに培ってきたノウハウを活かし、障がいを持つ方が、より自立した活動ができるように、気持ちも新たにスタッフ一同、頑張っていく所存です。
ご利用、ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

【このように変わります】

- | | |
|----------------------------|------------------------------------------|
| 〔現在〕 | 〔H22.4～〕 |
| ・対象者 自閉症および周辺者 | 18才以上の自閉症および周辺者、知的障がい者
(障がい者手帳をお持ちの方) |
| ・施設管理費(1万円) + 利用料(4万円) | 施設管理料(3千円) + 利用料(無料) |
| ・昼食 各自準備 | 各自準備 宅配弁当も利用 |
| ・送迎は今後予定 | |
| ・開所日 月～金 10:00～15:30(変わらず) | |

利用者募集 問い合わせ先 TEL/FAX 092-632-8150
E-mail npotouch@ybb.ne.jp

発行元

特定非営利活動法人
自閉症くらし応援舎
TOUCH 広報部
福岡市東区箱崎1-19-9
優箱崎ビル1F2号
Tel & Fax(092)632-8150

HP

<http://www.npotouch.jp/>
E-mail
npotouch@ybb.ne.jp



PLT教室だより



今回は、ある方の療育の様子を少しご紹介させていただきたいと思います。

PLT教室に通われ始めたころ、課題の材料や手順書、指示書など紙を使ったものは破ってしまう方がおられました。もちろん、全てのものを破るというわけではありません。

そのため、ラミネートをかけて提示することが度々ありました。

半年ほどすると、用紙の使い方や扱い方が分かり始め、ラミネートをしなくても少しテープを貼っているだけで、破りたい衝動を自分でセーブすることができるようになってきました。

それは1~2年経きましたが、今ではテープなしでも適切に扱うことができるようになりました。自立課題(支援者の目の届かない所)でも一人できちんと扱うことができています。



紙を使った課題



その行動は、日常生活にとっても役立つこととなりました。

これまで、切符やレシートなどを破っていた彼が、切符は破らずに持っている、レシートは半分に折って財布の中に入れるという行動ができるようになりました。

積み重ねていくことで、物の使い方や役割が少しずつ分かってきたように思います。

何かを身につけるには、すぐに身につく行動もありますが、時間のかかる行動もあります。時間がかかっても、中断しても子どもたちは前進していくことをどのお子さんからも感じられました。子どもたちの力は、どこまでも素晴らしいです。



破って良い紙の提示
(その他の紙は、いけない紙)



最新号 8号



TOUCHの活動を
紹介していただ
いてます。

学習会の
紹介をして
いただきました。



応援ありがとうございます

三瀬ルベール牧場 どんぐり村
アンシャンテ
佐賀県佐賀市三瀬村杠2234-67
TEL:0952-56-2141



アンシャンテで
販売

スマイルポッケの毎日

スマイルポッケのイラストレーター パソコンでの絵描き～商品になるまで

Bさんは、パソコンのマウスを使って絵を描くのが上手です。
本人が描きたいと思ったもの、或いは季節などに応じて、こちらからお願いしたものを一日に一つ、描いてもらっています。

左右や上下対称のものは、半分描いてコピーし、反転させるなど、巧みにパソコンを操作してくれます。

そして本人が描いた絵を私たちが構成し、ハガキやメッセージカードなどの商品にしています。

Bさんは出来たものを、手順に沿って丁寧にパッキングをしてくれます。
自分の描いた絵が商品になっていくのが嬉しい様子で、とても楽しそうに、意欲的に取り組んでくれています。

本人の得意なことが作業として活かすことが出来、製作から販売までの過程に出来る限り携わってもらおうなど、今後も流れが分かりやすく、より積極的に仕事へ取り組むことが出来るよう、支援していきたいと思えます。



いつもアルミ缶のご協力、ありがとうございます。

いつもアルミ缶のご協力、ありがとうございます。

スマイルポッケでは、アルミ缶のつぶしの前に、プルトップ取りを行い、この1年半で、約1.25kg、集めることが出来ました。

先日、東区社会福祉協議会へ寄付させていただきました(収集を承って頂きました)。

車椅子一台に600kg～800kg程度のプルトップが必要と言われておりますので、今後とも少しでも社会へ役立てる活動を、作業場としても行っていきたいと思えます。



スマイルポッケ製品の販売協力店

ときめきショップ ありがた屋
福岡市中央区渡辺通2-6-1
西鉄薬院駅ビル1階
TEL:092-717-1177(FAX兼用)
営業時間 9:00～19:00
定休日 年末年始

ACB deux(飲食店)
福岡市中央区大名2-1-5
公建ビル3階
TEL:092-732-3152
定休日:日・祭日

ふくふくプラザ1F・授産製品展示コーナー
福岡県福岡市中央区荒戸3丁目3番39号
TEL:092-731-2929(総合受付)
定休日 月曜日

カットメイク春
宗像市泉ヶ丘2丁目14-2
TEL:0940-35-2745
定休日 土・日

菅崎宮前銘菓堂
福岡市東区箱崎1丁目43-17
TEL:092-632-6707
営業時間 9:00～19:00
定休日 なし

菅崎公会堂
福岡市東区箱崎1丁目29-24-101号
TEL:092-633-6862
営業時間 月～土 11:30～21:00
定休日:日・祭日

TOUCH ネット販売

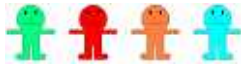
<http://www.npotouch.jp>

スマイルポッケ製品



感覚グッズ





「きょうだい児」サークルすてっぷ ボランティア代表 大堂 直幸



全国心身障害児福祉財団

『療育の窓』掲載

1、発足のきっかけから現在まで

福岡を中心に活動している「自閉症くらし応援舎TOUCH(以下、TOUCH)」というNPO法人がある。TOUCHは、自閉症児・者を取り巻く全ての環境を支援する事を目的としており、自閉症児・者の兄弟姉妹、いわゆる「きょうだい児」支援の重要性を設立時から唱えていた。その思いに賛同した私とボランティア仲間(以下、ボラ)が、活動内容等を検討し、03年7月にステップを発足させた。

ただ、当時は自閉症児の「きょうだい児」サークルだったが、徐々に他の発達障がい児の保護者からのニーズも増えた。そこで07年5月、TOUCHから独立し、発達障がい児を兄弟姉妹に持つ「きょうだい児」を支援するサークルとして、名称を「すてっぷ」と改め再スタートした。

なお、現在でもTOUCHには広報などでサポートして頂いており、任意団体として活動するすてっぷには心強い存在である。

2、すてっぷの目的について

その生活環境から、普段から我慢をすることが多いと思われる「きょうだい児」たちに、存分に楽しみ自分らしさを発揮する事ができる場を提供する。

親・教師・学校の友人等に相談しにくい悩み等を相談出来、お互いを支え合える同じ境遇の仲間や、信頼の出来るボラを幼いうちから作る事が出来る場を提供する。

様々な活動を通して、自己を高め、相手を思いやる心を育み、「きょうだい児」もボラも一緒に成長する機会を提供する。

保護者の心理的・肉体的負担の軽減や、障がい児に対する集中的な教育・療育の時間、保護者自身の為の時間を提供する。

これらの目的が達成出来ているか、まだよく分からないが、「学校で積極的に発言するようになった」「笑う事が多くなった」等の話を聞いたり、子供たちが障がいの話を自然にする姿(ボラからはあえて障がいの話をしていない)を見ると、すてっぷが何らかのきっかけとなり、子供に変化が出ているのではと感じている。



3、すてっぷの活動内容について

ステップの時代は毎月1回、すてっぷとして活動を再開した07年8月以降は、2か月に1回のペースで活動を行っている。

すてっぷの活動を行う上で、子供たちが普段出来ない事を取り入れるよう心掛けている。この「出来ない」には2通りある。

1つは、「非日常的な活動」であり、餅つきやキャンプ等がこれだ。これらは言わば異空間での活動であり、そういう場での思い出を共有する事でお互いを特別な仲間だと意識し、より密な関係になる事を狙っている。

そしてもう1つが「日常的な活動であるが出来ない(出来にくい)活動」である。これにはボーリングや買い物、旅行等の他、公共交通機関での移動も含まれる。一般的に小・中学校までに保護者と体験する事が多いこれらの活動だが、障がい児が活動しにくいといった理由から、家族で行く機会が少ない場合がある。これらの体験が少ないと、いざ友達同士で遊びに行こうという時に、チケットの買い方が分からない、電車の乗り方が分からない、等という事に成り得る。その為、このような活動を取り入れる事で、子供の社会経験の経験値を上げる事を狙っている。また、賛否両論あるだろうが、「全員敬語を使わず話す」、「ボラの事はニックネームで呼ぶ」等、子供がボラをより近く思えるような工夫をしている。それと、子供を叱る時は極力私が叱り、子供がボラ全体に対して怖いイメージを持たないようにしている。私も、子供が反省した後はまた普通に子供と接し、普段から子供と一緒に笑う事で、子供が「悪い事をしたから叱られた」とより思えるように心掛けている。

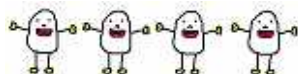
【キャンプでの調理の様子】



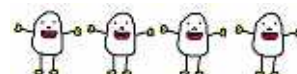
4、最後に・・・



すてっぷでは、子供もボラも同じように楽しめるよう心掛けている。そしてそのすてっぷを通して、子供たちに知って欲しい事がある。それは各々が自分の人生を楽しんでいいのだ、という事だ。「きょうだい児」も「障がい児」も、お互いを支え合う事は必要だが、「きょうだい児」という「肩書き」にとらわれず、自分の幸せの為に生きて欲しい。この思いが子供に伝わるように、これからもみんなですてっぷを楽しんでいきたい。



「ガンバの会」の5年間



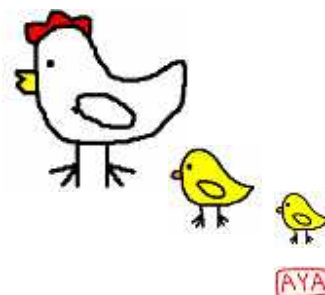
毎年正月の年賀状の中に必ず、四国、とくに香川からの年賀状が十数枚ある。「ガンバの会」で出会った家族や学生からのものである。四国学院大学で、学生たちと始めた自閉的な子どもとその家族との治療教育活動が、「ガンバの会」であった。この会の名前は、「ガンバと15匹の仲間たち」(アニメ)から拝借した。宿敵大イタチのノロイに、仲間たちと果敢に戦いを挑む無鉄砲なネズミがガンバだ。ガンバの闘志を持って自閉症とみんなで取り組むのだという意気込みでつけた。知り合いの養護学校の先生も参加してくれたし、久保紘章先生も応援してくれた。

「ガンバの会」では個別の課題学習に取り組んだ。自閉症の言語・認知説に基づき、模倣訓練や、基本的な学習態度の形成を目指して、1対1で学生がついて、机上の課題をやらせた。型はめ、パズル、ひも通し、ペグボードなどの教材を用いて、(当時流行っていた)行動療法のやり方をまねた。しかし期待通りには順調に進まず、どのような課題を、どう系統立ててやればいいのかいつも悩んだ。

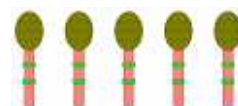
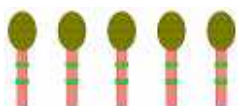
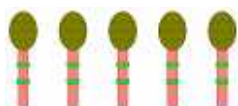
また「土曜学級」でやったような集団によるリズム遊びや運動活動も、体育館や芝生のキャンパスで実施した。マット、跳び箱、平均台などのサーキットや、手押し車、二人三脚などの2人組の活動、そして二本の竹を使っての開閉に合わせて跳び渡るバンブーダンスもみんなでやった。天気の良い土曜日の午後のキャンパスで、子どもたちと学生たちの掛け声や、笑い声が響いていた。身体を動かして少し疲れたら、芝生に腰をおろして、手遊び・指遊びを楽しんだ。こうした個別学習や、集団活動によって、子どもたちの言語や認知能力、感覚運動、身体図式などを伸ばすための発達促進のプログラムを実施した。

「ガンバの会」の特徴は、活動内容よりも、むしろ家族を巻き込んだ活動というところにあったと思っている。会の目的として、「家族と協力して、子どもの生活全体を考え、障害児の家庭および地域の中での適応を改善し、発達を促す環境を整備すること」という大それた目標を掲げたのだった。とくに「家族全員そろっての参加」を強調し、その家族参加のモデルとして「井上一家」が全員で参加していた。

およそ30年前で、生まれて1歳前後の長男芳雄をおぶって、妻は母親グループの係となって参加した。本当は養護学校の先生になりたかったのに、結婚してそれを諦めたが、どうしても障害児や家族との関わりを実践し続けたかった妻ははりきっていた。



また「ガンバの会」の活動には、日頃障害児の陰にいて忘れられがちな存在であった「きょうだい」たちにも一緒に参加してもらうことにした。全体の活動の中でモデルをやってもらい、また自分たちだけの活動も担当の学生たちと楽しんでもらった。さらに最も大変だったのは、父親たちを会に引き出すことだった。年に2~3回「ダスキんふるさと村」や、大学の合宿研修施設などで行ったキャンプ(合宿)に父親もできるだけ参加してもらった。一度「父子合宿」と称して、母親は来ないで父親と子どもと学生たちだけで合宿したことがあった。自分の子どもを担当してもらおうと、なかなか言うことを聞いてくれないわが子に、腹を立ててしまった父親もいたが、上手く子どもとふれあい楽しんでた父親もいた。そのような活動により、ピクニックやクリスマスなどの行事は、家族そろっての参加が当たり前になった。学生たちは、家庭訪問したり、学校の運動会や学芸会に出かけていたりして、家族と親しくなり、家族にとっての応援団、サポーターとして関わりを深めた。「ガンバの会」の5年間は、週に2~3回学生たちと準備や活動や研究会をして、また子どもや家族ともいろいろな活動、学び、そして苦楽をともにした井上一家にとっても二度とないとても貴重な経験であったと痛感している。



箱崎散策

TOUCHの作業所 スマイルポッケの製品販売をしてくださっている、お店を紹介します。

筥崎宮前銘菓堂



福岡市東区箱崎1丁目43-17
TEL 092-632-6707
FAX 092-632-6708
E-mail:kzo_ssk@s7.dion.ne.jp
営業時間 9時～19時
定休日 なし 駐車場あり



ここにスマイルポッケの製品があります！



100種類以上の品揃え。博多銘菓が一ヶ所で揃う、福岡でも類を見ないお店で、昔なつかしい手作りお菓子はじめ、1個からのバラ売りもされています。筥崎宮前から参道近くです。

平成2年から営業され、ご主人と奥様の温かい笑顔が素敵なお店です。店内には座っていただけるイスがあり、ちょっとひと休みし、いっぶくの時間、オーナーとのお話で盛り上がり、お菓子の試食やお茶のおもてなしもしていただければ心癒される時間を過ごせます。

お土産やご自宅用に博多銘菓を召し上がられてみてはいかがでしょうか。また、何を買っているのか分からない時はオーナーにご相談すると、予算に応じてご助言いただけます。

箱崎商店街にお越しの際は、筥崎宮前銘菓堂にお立ち寄りになってみてはいかがでしょうか！



食と命と農をつなぐコミュニティレストラン

筥崎公会堂



第1土曜のお野菜バイキング



有機・無農薬の自給畑のお野菜を使っています。

テラスから、一面ガラス張りの扉で仕切られた店内へ。とても素敵な空間が広がります。

有機・無農薬のお野菜、無添加の調味料、放牧場で育てられたハッピーポーク、上五島の漁師さん直送の新鮮なお魚など、「正しい」食材をヘルシーにお料理してお出しする自然食レストランです。

日替わり定食は、主菜が野菜、お肉、お魚の3種から選べ、毎月、第1土曜日は、『お野菜バイキング』。全て身体が喜ぶ安心安全なヘルシーメニューです。

アットホームな雰囲気でお話と食にこだわのお話が弾みます。

地域と密着したお店で、絵画や写真作品の展示や、時には素敵な音楽ライブなどもあります。

歓送迎会・パーティー・貸し切りなどご予約できます。一度足を運んでみられませんか。

福岡市東区箱崎1丁目29-24-101号
TEL/FAX 092-633-6862
<http://www.kokaido.com/>
営業時間 11:30～21:00
定休日:日曜日 祝日
駐車場1台あり
近くの100円/時 Pに駐車のお客様には、1時間分をキャッシュバック



棚・レジ横にスマイルポッケの製品があります

書籍のご紹介



ぼく、アスペルガーかもしれない。
著者 中田大地

花風社 価格：1,470円

特別支援級に学ぶ8歳の男の子が本を書きました！

7歳のときに自分の特性に気づいた大地君が
「なるべく同じ失敗を繰り返さないように」
自分の「トリセツ」を書きました。支援級で学べることを
「ラッキーだね！」と喜んでいる大地君の生き生きとした
内面を伝える一冊です。



思春期の「うつ」がよくわかる本
監修 笠原真理

講談社 価格：1,260円

中学生では4人に1人。もう見過ごせない！
行動の変化に「うつ」のサインが現れる！
背景から治療法まで解説した完全ガイド。



・特別支援教育をすすめる本 こんなとき、どうする？
発達障害のある子への支援

1 幼稚園・保育園

2 小学校

3 中学校以降

編 諏訪 利明，安倍 陽子 監修 内山 登紀夫

編 中山 清司 監修 内山 登紀夫

ミネルヴァ書房 価格：各 2,625円

「発達と障害を考える本」の制作スタッフが贈る

発達障害のある子どもへの支援をわかりやすいイラストでやさしく紹介
発達障害が疑われる子どもたちのケースを取り上げており、知的障害
を伴わない自閉症(高機能自閉症、アスペルガー症候群など)、
ADHD(注意欠如・多動性障害)などへの支援を中心としています。



どうして私、片づけられないの？

毎日が気持ちいい！

「ADHDハッピーマニュアル」

著者：桜井公子

大和出版 価格：1,260円

初診10年待ちのADD専門の院長先生が書いた
イラスト入りのとっても読みやすい本です。

= 訃報 =

この欄でたびたび紹介してきました『光とともに』の
作者戸部けいこさんが、1月28日に急逝されました。
ご冥福をお祈りいたします。

ご存知ですか リボンマグネット

「新しい感覚の 社会貢献動」



こちらの商品の売上の一部を社団法人日本自閉症協会に寄付されます。
大きさも大、小、またピンバッチ等もあります。

リボンマグネットは、購入すると金額の一部がチャリティ活動に充てられ、その活動を支援する証として車に貼るというもので、アメリカではすでに全土に渡って広く普及している、個人参加形式のチャリティ活動なのです。

リボンマグネットは、2003年にアメリカ・ノースカロライナ州の田舎町ウインストンセーラム市で誕生しました。

イラクへ出兵した息子の無事を祈り、500枚の写真入りのイエロー・リボンマグネットを製作し、親戚や知り合いに配り、皆で車の後部に貼り、無事に帰還することを祈ったのです。これがリボンマグネットの始まりです。

もともとアメリカでは、南北戦争の頃から家族や親戚などが出兵すると、庭などの古いオークの木に黄色いリボンを結び、愛する人の無事の帰還を願う風習がありました。そのため、リボンといえば、何かのメッセージを世論に訴えるシンボルとして、アメリカ全土に浸透しています。

リボンマグネットは支援する団体によって様々なデザインがあります。自分が支援したい団体、もしくは自分の好きなデザインを選びリボンマグネットを購入します。リボンマグネットの売上の一部が該当の支援団体への寄付になります

= リボンのカタチ =

ループ状に丸めたリボンをコースリボンと呼び、コースとは、社会の課題、問題のことで、リボンを身につけることで、社会のデリケートな問題に関するメッセージの発信をサポートする役目を果たしています。

リボンマグネット公式サイト <http://www.msds-small.com/>

寄付を頂きました皆様、賛助会員の皆様、
ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

2009年7月～2010年2月

寄付金 授与式



寄付

団体 学校法人教育ビジネス学園グループ・博友会 (順不同・敬称略)
個人 副島雅子 小西憲次 瀧井正人

賛助会員

団体 社会福祉法人 明日へ向かって 医療法人 望洋会 鮫島病院
個人

小川正棋	鮫島哲也	鮫島文字	鮫島純治	釜堀恵子	滝井登	瀧井はる香	
副島雅子	岡本幹子	猿川京子	猿川隆文	萩原房子	安東恵子	安東剛	
小西稔	小西香代	神戸啓作	大澤寛	大澤愛子	木村弥生	山本美智子	
黛保子	高橋京子	神戸精一	中原信明	金子博美	下山久美子	後藤みづほ	
友寄文子	伊波玲子	杉野博子	大森奨	樋田勝	森川進	座間味千賀子	
大神和恵	神戸金貴	神戸絹江	神戸忠昭	峰松美恵	大久保麗子	佐原順子	馬場由紀子
鮫島哲郎	鮫島一美	鮫島仁彦	鮫島葉子	鮫島卓也	鮫島ハマ	中村久美子	小澤勝一
小林みえ子	高橋司	高橋京子	三村二六子	影山奈美子	有賀修	徳永真由美	作道由美子
神戸真也	糺谷彬	内田博昭	神戸貞雄	時任イツ子	時任義治	時任義裕	時任キヨ
神戸昌寿	神戸洋子	緒方俊一	緒方昌子	神戸守雄	神戸修身	藤田理恵子	神戸勝昇
相川清治	相川節子	中島久	小井土トリ子				

皆様の温かいお志は、TOUCHの活動で大切にに使わせていただきます。 ゆうちょ振替口座01790-0-117757

編集後記・・・TOUCHも、平成18年1月にNPO法人の認証を得て4年が過ぎました。5年目の本年4月から「スマイルポッケ」が福岡市の助成をいただき活動してまいります。これからも良い支援を目指し、TOUCH通信からも有益な情報を提供していきたいと思っております。